第102回薬剤師国家試験直前 最終チェックポイント!

6年制国家試験の6回目となる第102回薬剤師国家試験が2月25日(土)、26日(日)に実施される。前回の国試は、同年度9月30日に厚生労働省医薬食品局(現医薬・生活衛生局)から「新薬剤師国家試験についての一部改正」が通知され、薬剤師国家試験(以下、国試)の合格基準が一部改正された(改正後合格基準:表)ため、多くの学生が不安を感じながら受験することとなった。しかし、実際の合格率は、6年制新卒86.24%(合格者数7108人)、6年制既卒67.92%(合格者数4201人)、その他(旧4年制卒、4年制卒を含む)34.29%(合格者数179人)と高い割合を示し、合格者総数が過去10年で最も高い人数となった。これらの結果は、第99回や第100回国試と比較して、既出問題がそのまま再出題されるなど、解答しやすい問題が多く出題されたことなどが影響したと考えら

れる。しかし、「基礎力」「考える力」「医療現場での実践力」を問う問題は継続して出題されており、 これらは6年卒業時に必要とされている資質「薬剤師として求められる基本的な資質」の中の「基 礎的な科学力」「薬物療法における実践的能力」でも示されており、第102回国試でもその傾向は 継続されると思われる。

また、改訂コア・カリで長期実務実習中に必ず体験してほしいとされる「代表的な疾患:図」が発表され、第101回国試でも実践問題を中心に多く出題されていた。第102回国試に向けても代表的な疾患を中心に症候、検査値を読み取り、ガイドラインに基づいた薬物療法につなげて解答するような臨床的知識を問う内容を理解できる学修が必要となる。

今回は、第102回国試に向けた「最終チェックポイント」として、薬学ゼミナール科目責任者が全9領域の国試対策を紹介する。

茂木 雄輔 物理科目責任者



林 美樹子 化学科目責任者



小林 あつみ 生物科目責任者



菊池 聡 衛生科目責任者



猪又 雄太 薬理科目責任者



横井 宏哉 薬剤科目責任者



後藤 健太 治療科目責任者



尾島 良太 法規科目責任者



坂口 努 実務科目責任者

表 薬剤師国家試験問題区分と合格基準(改正後)

各30%	問題区分				
科目	必須問題	一般問題	薬学理論問題	薬学実践問題	出題数計
物理・化学・生物	15問	45間	30問	15問 (複合問題)	60問
衛生	10問	30問	20問	10問 (複合問題)	40問
薬理	15間	25間	15間	10問 (複合問題)	40問
薬剤	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
病態·薬物治療	15問	25問	15問	10問 (複合問題)	40問
去規・制度・倫理	10問	20問	10問	10問 (複合問題)	30問
70%	10問	85問	-	20問 + 65問 (複合問題)	95間
出題数計	90間	255間			345問

※実践問題は、「実務」20問、及びそれぞれの科目と「実務」とを関連させた複合問題130問からなる

図 「代表的な疾患」

|学アカデミ

薬学ゼミナ

がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫 ・アレルギー疾患、感染症

※薬学実務実習に関するガイドライン 2015年2月 文部科学省

に出題されている知識で解答できる問題が多く出題されます。しっかり既出問題を解き、解くだけでなく、その分野の周辺知識を補完しましょう。出題

頻度が高い範囲は、『容量分析、クロマトグラフィー、電気泳動、分光分析、 放射性核種』です。

物理

物理は苦手な方が多い科目ですが、 物理の傾向と多く出題される内容を記 載しましたので、ご参照下さい。

物理化学では、図・表を用いてその 場で考える問題や、文章を読解し自分 で公式を立式する計算問題が出題され ます。既出問題の知識を暗記するのではなく、理解し説明できる必要があります。出題頻度が高い範囲は、『エネルギー・自発的な反応、反応速度論、東一的性質、分子問相互作用』です。

分析化学・放射化学では、既出問題

化学

いよいよ国試が近づいてきました ね。化学の領域は、これまで通り『**化** 学構造』が多く出題されることが予想 されます。

基礎事項は用語を理解し、該当する 構造をしっかり選べるようにしましょ う。また、化学反応を苦手とする方も いらっしゃると思いますが、それぞれ の特徴を理解した上で、化学反応式に おける主生成物の構造を判断できるよ うにしましょう。また、糖をはじめと する『生体成分の構造、それに関連す る化学反応』も必ず復習しましょう!

そしてこの時期、忘れてはいけない のが、『**生薬**』です!覚えてしまえば

